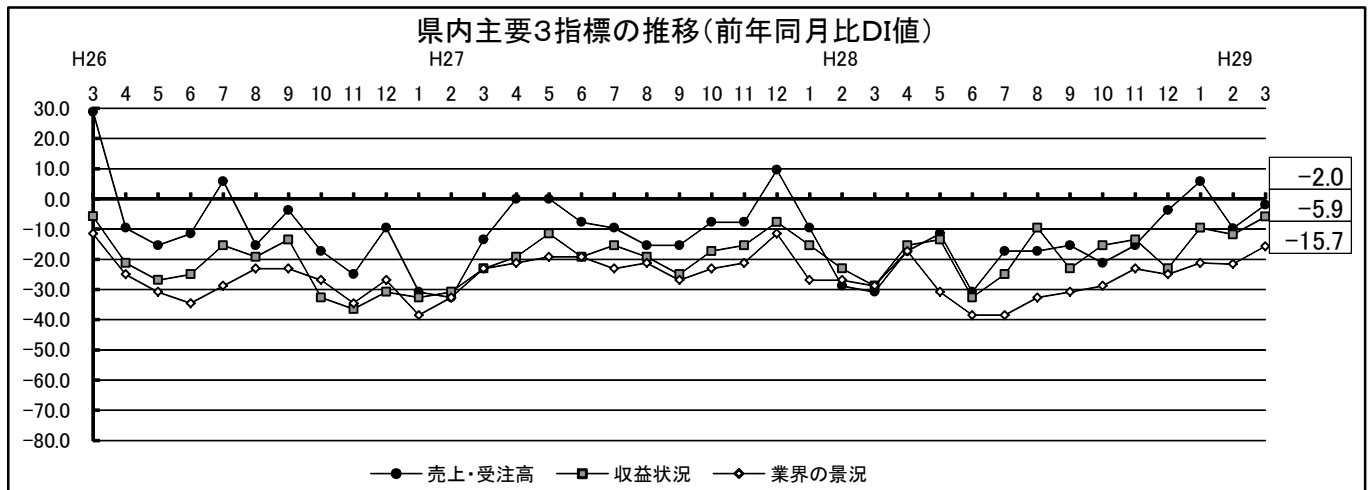


# 中小企業団体情報連絡員報告結果(平成29年3月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 3月の前年同月比DI値は、前月の前年同月比DI値と比べて、9指標中「売上高」「販売価格」「収益状況」「設備操業度」「雇用人員」「業界の景況」の6指標が上昇した。
- 主要3指標は、「売上高」が前月より7.8ポイント上昇の-2.0ポイント、「収益状況」が5.9ポイント上昇の-5.9ポイント、「業界の景況」が5.9ポイント上昇の-15.7ポイントであった。
- 年度末に入り、売上高が大きく上昇したものの、実需は弱含みのままで推移しており、未だ十分な価格転嫁が実施できていない業界が多い。また、残業規制や長時間労働への対応等に迫られており、受注はあっても事業計画が立案できない状況になりつつある。



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上・受注高	-2.0	7.8	-10.0	13.1
収益状況	-5.9	5.9	-15.8	7.7
業界の景況	-15.7	5.9	-20.5	5.3

## 売上・受注高

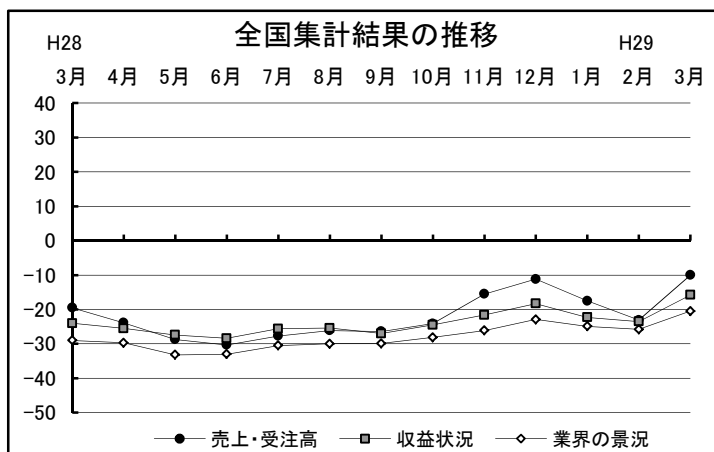
当月の県内売上・受注高DI値は、前月より7.8ポイント上昇の-2.0ポイントとなった。全国においては、前月より13.1ポイント上昇の-10.0ポイントとなった。

## 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より5.9ポイント上昇の-5.9ポイントとなった。全国においては、前月より7.7ポイント上昇の-15.8ポイントとなった。

## 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より5.9ポイント上昇の-15.7ポイントとなった。全国においては、前月より5.3ポイント上昇の-20.5ポイントとなった。



## -概況-

3月の前年同月比D I値は、前月の前年同月比D I値と比べて、9指標中「条件」が悪化し、「売上」「価格」「収益」「設備」「雇用」「景況」の6指標が改善した。主要3指標は、「売上」が前月より7.8ポイント上昇の-2.0ポイント、「収益」が5.9ポイント上昇の-5.9ポイント、「景況」が前月より5.9ポイント上昇の-15.7ポイントであった。年度末の駆け込み需要のためか、「売上」「収益」ともに5ポイントを超えて上昇した。多くの指標が上昇もしくは横ばいの一方、「条件」は昨年より引き続きマイナス値を示しており、厳しい状況が続いている。

業種別の状況を見ると、図表4のとおり、「売上」は製造業で7業種中4業種が上昇、2業種が下降し、非製造業で6業種中1業種が上昇、1業種が下降した。「収益」は製造業で2業種が上昇、1業種が下降し、非製造業で3業種が上昇、2業種が下降した。「景況」は製造業で4業種が上昇、3業種が横ばいであり、非製造業では1業種が上昇、2業種が下降した。

全国的に見ると、継続する為替の円安動向に伴って、輸出関連の競争力が維持されていることに加え、生鮮品の価格高騰と年度末需要が売上高を大きく押し上げているものの、他方では、輸入費用の増大や人手不足等、経営コストの上昇と供給力の減退も逼迫しており、先行きは依然として不透明である。

図表1～【業種別・指標別動向一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	△	△	△	△	△	△	△	△	△
繊維・同製品	×	×	△	△	×	△	△	△	△
木材・木製品	△	△	△	△	△	△	△	△	△
印刷	△	△	△	△	△	△	△	△	△
窯業・土石	△	△	○	△	△	△	○	△	△
鉄鋼・金属	△	△	△	△	△	△	△	△	△
一般機器	△	△	△	△	△	△	△	△	△
卸売業	△	△	△	△	△	△	—	△	×
小売業	×	△	△	△	×	×	—	△	×
サービス業	△	—	△	△	○	△	—	△	△
建設業	△	—	△	△	△	△	—	△	△
運輸業	△	—	△	△	△	△	—	△	△
その他	△	—	△	△	△	△	—	△	△

図表2～【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	33.3	-33.3	33.3	-33.3	-33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
繊維・同製品	-50.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-25.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	-25.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	25.0	-25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般機器	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
製造業	0.0	-20.8	8.3	-4.2	-12.5	-4.2	12.5	-4.2	-4.2
卸売業	33.3	-33.3	0.0	0.0	-33.3	0.0		0.0	-66.7
小売業	-57.1	-28.6	0.0	-14.3	-42.9	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	33.3		16.7	0.0	50.0	16.7		33.3	16.7
建設業	20.0		0.0	0.0	20.0	0.0		0.0	-20.0
運輸業	-25.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-25.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-3.7	-30.0	3.7	-3.7	0.0	-7.4		7.4	-25.9
全体	-2.0	-23.5	5.9	-3.9	-5.9	-5.9	12.5	2.0	-15.7

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	前月比
売上高	-30.8	-17.3	-11.5	-30.8	-17.3	-17.3	-15.4	-21.2	-15.4	-3.8	5.8	-9.8	-2.0	7.8
在庫数量	-5.7	-8.6	-5.7	-11.4	-22.9	-22.9	-31.4	-28.6	-14.3	-22.9	-14.3	-23.5	-23.5	0.0
販売価格	-1.9	3.8	-3.8	-7.7	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	0.0	3.8	3.9	5.9	2.0
取引条件	-7.7	-3.8	0.0	-7.7	-5.8	-7.7	-9.6	-1.9	-5.8	-3.8	-1.9	-2.0	-3.9	-2.0
収益状況	-28.8	-15.4	-13.5	-32.7	-25.0	-9.6	-23.1	-15.4	-13.5	-23.1	-9.6	-11.8	-5.9	5.9
資金繰り	-11.5	-9.6	0.0	-11.5	-9.6	-5.8	-7.7	-9.6	-5.8	-5.8	-3.8	-5.9	-5.9	0.0
設備操業度	-24.0	-20.0	-24.0	-16.0	-28.0	-16.0	-16.0	-8.0	-4.0	-8.0	-8.0	0.0	12.5	12.5
雇用人員	-1.9	1.9	3.8	3.8	-1.9	0.0	0.0	0.0	-5.8	-3.8	-3.8	-5.9	2.0	7.8
業界の景況	-28.8	-17.3	-30.8	-38.5	-38.5	-32.7	-30.8	-28.8	-23.1	-25.0	-21.2	-21.6	-15.7	5.9

図表3～【指標別DI値の推移】

図表4～【前月DI値差】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	66.7	33.3	33.3	-33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3
繊維・同製品	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
木材・木製品	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般機器	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0
製造業	16.7	4.2	12.5	-4.2	8.3	8.3	12.5	4.2	16.7
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	-33.3	0.0		0.0	-33.3
小売業	-28.6	-14.3	-28.6	0.0	-28.6	-42.9		0.0	-14.3
サービス業	0.0		0.0	0.0	33.3	16.7		50.0	16.7
建設業	40.0		0.0	0.0	20.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	25.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	0.0	-10.0	-7.4	0.0	3.7	-7.4		11.1	-3.7
全体	7.8	0.0	2.0	-2.0	5.9	0.0	12.5	7.8	5.9

## 特記事項

情報連絡員報告（平成29年3月分）

所属組合	特記事項
酒類製造業	ほとんどの蔵元では、今年の酒造りが終了しこれから営業活動が活発になる。組合では、4月26日東京で蔵元26社によるイベントと、5月17日大阪で蔵元21社によるイベントを開催し、需要の拡大を図っていく。
外衣・シャツ製造業	例年3月～4月は最盛期だが今年は異常。5月～6月が不安。
染色整理業	特段変化なく、低位で推移している。組合員1社廃業あり。
一般製材業	今年度は全般に加工坪数が少ない年だった。前年は1.5体制のシフト(AM8:00～PM10:00)をとっていたが、今年は夜の部を昼にまわすなどの対応にて人員を対応してきた。4月は少し上向きな状況のように思われるが、先はまだまだ開けない。
建具製造業	待望の年度末、昨期より良い数字を残せた組合員が多いようである。
印刷業	ニーズの変化、需要の停滞、過当競争、低価格など厳しい経営環境に変わりはない。28年度で5社組合脱会事業所があり、組合の運営も厳しさが増している。
金属製品製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品関連…富士重工に關係する下請企業の受注は引き続き順調に推移している。日産自動車関係先も受注増加傾向にある。</li> <li>建設機械関連…中国に進出している日本企業からの受注がやや回復しているものの、中国国内での発注が主力となっており、日本国内においては収益面で厳しい状況となっている。</li> </ul>
一般機械器具製造業	本年3月の報告は前年同月と比較し、一部の企業を除き全体的に不変という報告を受けた。しかし少々懸念材料が感じ取れる。今後の業界の景気状況を注視していきたいと考えている。
一般機械器具製造業	若干上向き加減に転じている。但し、全社が好転している訳ではなく、まだら模様である。
各種商品卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>海苔製造・卸売業…都内の小学校で学校給食を食べた児童が集団食中毒となり、給食に使われた刻み海苔からノロウイルスが検出されたことで、消費者から会社への問い合わせが多かった。風評被害による需要減が懸念されるため、衛生面の見直しを徹底する。一方で、海苔の原料不作に伴う減産で仕入れ価格が高騰しているが、販売価格への転嫁が難しい。</li> <li>機械工具類卸売業…決算（1月）の結果前年度を上回ったため、従業員に臨時ボーナスを支給した。建設資材卸売業では、今年の1月後半から動きが良くなってきて、3月時点でも好転が続いている。しかし、平成28年度を振り返ると、27年度と比べやや厳しい結果となりそうだ。</li> <li>産業用運搬車両（フォークリフト）販売業…例年新卒者を数名採用してきたが、28年度は採用できなかった。</li> </ul>
食肉小売業	家畜の病気PED・インフルエンザ等で、入荷が少なく仕入価格が上昇している。消費者の大半が、低価格品へシフト。高価格品の動きが悪く、物量は動くが売上が上がらない状況。
中古自動車小売業	新車の引き合いが若干強く、中古車が弱含む。
各種商品小売業	全体的に不調の3月だった。大型店も売上の減少に歯止めがかからず苦戦の月であったと聞いている。地方経済はまだ遠い所である。
各種商品小売業	主力テナントの退店により、合計売上高は前年割れしてしまったが、既存店ベースではほぼ前年水準であった。しかし、客数に関してはほぼ全業態とも数字を落としており、客数減少に歯止めがかからない状況である。来店して頂いたお客様にいかに買上点数を増やして頂くかが、今後ますます重要になってくると思う。

花・植木小売業	3月前半は彼岸需要から菊類等に品薄感が続き、卒業、送別、婚礼などで洋花の引き合いも強くなったため、単価高での市場推移となった。彼岸明けは仏花需要が落ち着いた為に小菊、キンセンカ、スターチース等は弱含みとなったが、年度末需要からバラ、ガーベラ等の洋花は引き続き引き合いが強かった。
理容業	一部の店舗では、新年度を迎えるにあたり、従業員を雇用している。何とか後継者不足問題につながっていかねばと思う。
自動車整備業	前年に比べ改善は見られたものの、私共自動車整備業者では、ディーラー等のメンテナンスセット販売の影響もあり引き続き厳しい状況である。
ビルメンテナンス業	構内作業請負業を中心に各業種で増収増益となっている。
給食センター	平成28年3月末で不採算部門は撤退したが、平成28年4月より弁当の価格値上げと新規の得意先やスポットの弁当売上があったため、売上高は前年同月比で増加となった。 燃料・水道光熱費の価格が下がっていることや、新調理法で製造したシニア向け弁当の拡販等のコストダウンにより、収益は改善されていくと思われる。
旅館・ホテル	宿泊の客室稼働率に関してはここ数年のトレンドのまま全体的に上昇している。レストラン・宴会・婚礼など飲食に関する部門では多様化しており、ホテル利用が全てではなくなってきた。例年3月に行われていた歓送迎会が4月に予約されているケースが多く見られるため、売り上げ減少は4月と合わせてどうかというところである。
旅館・ホテル	前年度同月が落ち込んだ分、今年度は若干改善した。宿泊者数が増加した宿と減少した宿の比率は半々だが、増加した宿の方が人数で上回った。 今年は、昨年の暖冬・小雪に比べ残雪もあり春休みのスキー客も改善した。
一般土木建築業	先月の連絡票に2社の入会の報告をしたが、その後にも、2社の入会があり、計4社の入会が確定した。
内装工事業	栃木県室内装飾事業協同組合の防災ラベル支給枚数から見ると、前年同月比カーテン用ラベルは89%減、敷物用ラベルは52%増、壁装用ラベルは37%増であった。前年同期12ヵ月累計では、カーテン用ラベル51%減、敷物用ラベル5%減、壁装用ラベル28%減であった。 ラベルの支給(売上)金額同月比25%減、平成28年4月から平成29年3月累計では40%減。軽量鉄骨材の値上げの通告を受けており、年度内にはボード関係も値上げになる見通し。これらを反映させた見積り内容が来年度にかけて課題と思われる。
一般貨物自動車運送業	震災の影響で、輸送の減少がでている。
一般貨物自動車運送業	年度末で荷動きは若干の増加傾向を示したが、ドライバー不足、燃料価格上昇と厳しい業況である。 高速道路6会社は平成29年4月よりETCコーポレートカード利用規程改正により、車両制限令違反に対する罰則強化措置を実施することから、法令順守に一層の取り組みが必要となる。
貨物軽自動車運送業	年度末に入り、一般貨物の受注量並びに引っ越し貨物が増大したものの昨年同期と比べると前年並に推移した。但し、定期貨物の新規案件受託により収益状況は好転したが、ドライバー(人手)不足により、機会損失を招いている。
一般乗用旅客自動車運送業	通常、歓送迎会等で繁盛期のところであるが、売上等が落ちてしまっている。
大谷石採石業	前年同月日比較でほぼ同じであった。雇用人数は同じであるが、技術承継の「大谷アカデミー」参加者の方の採用により少しずつ世代交代が進んでいる。年度末もあり、工期が短いとの話があった。